

2005年度事業報告

1. 三者協議会「年度はじめの顔合わせ交流会」

日時：2005年5月17日(火) 午後4:00～5:45

場所：埼玉県国際協力プラザ会議室(埼玉県国際交流協会内)

参加者：26名(埼玉NGOネット、埼玉県国際課、埼玉県国際交流協会、JICA東京)

参加費：500円

担当者：尾池富美子、山尾三枝子、井上良美、猪俣雅子(案内発送・買い物・会場準備)
尾嶋佐和子(司会進行)

成果と課題：普段定例会やセミナーなどに出席できない会員も多数参加し、賑やかで和やかな交流会となり、ネットワークの強化・拡大の意義は大きかった。

2. 会員定期総会

日時：2005年6月21日(火) 午後7:30～8:30

場所：埼玉YMCA浦和センター

出席者：会員11名(8団体・3個人)+オブザーバー1名(JICA東京)

議案：2004年度事業報告、2004年度収支決算、2005年度事業計画、
2005年度役員、2005年度収支予算

担当責任者：尾嶋佐和子(資料作成・議長)

3. 国際理解教育・開発教育セミナー '06 ～平和な未来(あした)をつくるために～

主催：埼玉国際協力協議会

共催：独立行政法人 国際協力機構 東京国際センター(通称・JICA東京)

(財)埼玉県国際交流協会(通称・SIA)、草加市立中央公民会(草加会場のみ)

後援：埼玉県、埼玉県教育委員会

参加費：無料

内容：教員・NGO関係者・学生・関心のある一般県民・在住外国県民などが、共に参加型学習(ワークショップ)を中心に、「国際理解教育・開発教育」について学ぶ。

(1) 草加会場

日時：2006年1月29日(日) 午前10:00～午後4:30

場所：草加市立中央公民館

参加者：合計87名(スタッフ+講師：35名/一般参加者：52名)

内容：基調講演 カンベンガ・マリールイズさん

(ルワンダ出身・NPO法人「ルワンダの教育を考える会」副理事長)

JICAプログラム参加教員による国際理解教育実践事例発表

・青年海外協力隊現職参加教員(平成15年度ケニア派遣・2年間)

埼玉県立春日部女子高等学校教諭 河原塚 望

・教師海外研修参加教員(平成17年度ベトナム派遣チーム・夏季2週間)

さいたま市立下落合小学校教頭 皮籠石 成久

分科会

第1分科会：地域の外国人市民と共に推進する「国際理解教育」

ファシリテーター：山木 敦子（インフォメーション草加）

リソース・パースン：金 英姫（韓国出身）

第2分科会：地域で進める「外国人市民との交流・協力活動」

ファシリテーター：奥村 裕子（埼玉日本語ネットワーク代表）

リソース・パースン：山浦 育子（上海出身・日本語支援など）

第3・第4分科会（人数の都合により合併）：「国際協力入門」ワークショップ

～もし世界が100人の村だったら～

ファシリテーター：上条 直美（明治学院大学国際平和研究所）

アシスタント：大西 孝規（財・埼玉県国際交流協会職員）

全体会（振り返り）

- ・8グループに分かれて、本セミナーで学んだことや感想について話し合う
 - ・話し合われた内容についてグループごとに発表
 - ・全体のまとめと今後の展望
- ファシリテーター：赤石 和則（拓殖大学国際開発学部教授）

担当責任者：山木敦子・佐野明子、大西孝規

成果と課題：このセミナーの草加会場での実施は初めてであったが、中央公民館との共催により、この地域における「国際理解教育・開発教育」の普及の第一歩となった。また、マリールイズさんによる基調講演は、「人間らしく生きるためには、平和と教育がいかに重要であるか」についてなど、ルワンダの実情を紹介しながら切々と訴えるもので、参加者の心に深く染み渡り好評であった。

（2）さいたま会場

日時：2006年2月11日（土） 午前10：00～午後4：30

場所：埼玉県浦和地方庁舎5F

参加者：合計89名（スタッフ+講師：30名/一般参加者：59名）

内容： 基調講演 カンバルテル・ルートさん（ドイツ出身・埼玉大学助教授）

JICAプログラム参加教員による国際理解教育実践事例発表

- ・青年海外協力隊現職参加教員（平成13年度パラオ派遣・2年間）

所沢市立安松小学校教諭 田口 建史

- ・教師海外研修参加教員（平成17年度ベトナム派遣チーム・夏季2週間）

加須市立花崎北小学校教諭 梅澤 祐一

県立上尾橋高等学校教諭 大島 幸

分科会

第1分科会：地域の外国人市民と共に推進する「国際理解教育」

ファシリテーター：尾嶋 佐和子（埼玉国際協力協議会代表）

リソース・パースン：サルタナット・イブライン

（中国新疆ウイグル自治区出身・国際理解教育外国人講師）

第2分科会：地域で進める「外国人市民との交流・協力活動」

ファシリテーター：島崎 辰夫（財・埼玉県国際交流協会職員）

リソース・パースン：芳賀 洋子（地球っ子クラブ・美園代表）

加藤 頼子（地球っ子クラブ・スタッフ）

第3分科会：「多文化共生のための国際理解」ワークショップ 「レヌカの学び」

ファシリテーター：土橋 泰子（特活・開発教育協会企画推進員）

第4分科会：「国際協力入門」ワークショップ

～世界の問題について自分に何ができるか考える～

ファシリテーター：石川 一喜（拓殖大学国際開発教育センター講師）

全体会（振り返り）

- ・8グループに分かれて、本セミナーで学んだことや感想について話し合い、ペーパーにまとめる。
- ・話し合われた内容についてグループごとに発表
- ・講師への質疑応答
- ・全体のまとめと今後の展望

ファシリテーター：赤石 和則（拓殖大学国際開発学部教授）

担当責任者：尾嶋佐和子、佐野明子、黛亜希子

成果と課題：カンバルテル・ルートさんが、基調講演で「国際理解教育は英語教育」との趣旨を述べたことが、最後の「まとめ」の段階まで大きなテーマの一つとして、参加者の反論・同感・疑問などを呼び起こした。真正面からこのテーマについて議論したのは初めてであった。一日中、ギッシリの内容で充実感があったようだが、「少し詰め込み過ぎ」で時間が足りないとの感想も多々あったため、次年度からはプログラムの組み方に工夫が必要。

4. 会員の集い（新年会を兼ねる） 参加者少数のためキャンセル

日時：2006年1月7日（土）夕方～8日（日）午前中

場所：さいたま市浦和「別所沼会館」

担当責任者：尾池富美子

5. 国際協力市民講座～私たちにできる身近な国際協力について考えるために～（全3回）

【新規事業】

場所：埼玉県労働会館（北浦和・西口）

担当（コーディネート・広報・後援依頼・当日司会・事業完了報告書）：尾嶋佐和子

<第1回>

日時：2005年11月9日（水）午後7：00～8：30

内容：「国際協力は、地球社会の課題を解決する有力な手段になれるか」

アイス・ブレイキング：部屋の四隅（ホワイト・リングについて）

グループ・ワーク（地球社会の課題について：ブレイン・ストーミング ランキング）

全体討論：グループごとの発表と意見交換

振り返り：ファシリテーターによる「まとめと今後への課題」

ファシリテーター：石川 一喜（拓殖大学国際開発教育センター講師）

参加者：12名(含・講師)

<第2回>

日時：11月30日(水)午後7:00~8:30

内容：「戦争を予防するための国際協調としての国際協力」

1)レクチャー：

国際協力の発祥・歴史と今日の到達点

政府開発援助(ODA)と国家の発想

NGOによる国際協力の展開

最近の動向(グローバリゼーション・戦争・多様性・環境・人間の安全保障)

2)全体討論：国際協力への視点~一人の人間として~

講師：赤石和則(拓殖大学国際開発学部教授)

参加者：19名(含・講師)

<第3回>

日時：12月7日(水)午後7:00~8:30

内容：「具体的な国際協力活動について知り、一人の市民としてできる身近な国際協力を考える」

パネル・ディスカッション

・海外活動型NGO代表：「民族フォーラム」山本孟人

「メイあさかセンター」尾池富美子

・国内活動型NGO代表：「ふじみの国際交流センター」荒田光男

「インフォメーション草加」山木敦子

・青年海外協力隊(JOCV)帰国隊員代表：

「埼玉県国際交流協会(SIA)職員」大西孝規

「JICA 東京・国際協力推進員」佐野明子

振り返り+最新の情報提供 コメンテーター：赤石和則

ファシリテーター：尾嶋佐和子(埼玉国際協力協議会代表)

参加者：18名(含・講師)

<全体の成果と課題> 会員外の若い人・お勤め帰りの人をターゲットとし、今後のNGOネットの組織拡大も念頭に入れた企画だったが、参加者のほとんどが会員という結果に終わってしまった。しかし、少数ながらも熱心な会員外の参加者にも恵まれ、ある若い女性はその後、あるNGOに参加して活動を始めているとのこと。内容的には、3回とも中身が濃く、参加者には大変得るところの多い講座であったと思われる。

6. 会員ミニ学習会(定例会後):【新規事業】

<第1回> 日時：2005年9月13日(火)午後7:30~9:00 出席者：12名

講師：赤石和則 内容：「開発教育とは何か」「開発教育の歴史」「今日の地球社会の課題(開発問題)と開発教育」「開発教育の定義・体系」 感想：活発な質疑応答なども含め充実した内容だった。受講者には「目からウロコ」だったと大好評。

<第2回> 日時：10月18日(火)午後8:00~9:00 出席者：6名

講師：赤石和則 内容：「開発教育」について（前回のつづき） 感想：赤石さんが新たな資料も用意し、前回の内容を更に深め噛み砕いて解説してくれたので、大変参考になったが、何故か出席者が以上に少なかったのが残念。非常にもったいない学習会であった。

<第3回> 日時：11月15日（火）午後7：30～8：30 出席者：10名

講師：皮籠石成久 場所：さいたま市立下落合小学校 内容：教師海外研修・ベトナムチームに団長として参加した（8月の夏休み中）「ベトナム報告」を、「ベトナムBOX」やパワーポイントを駆使して、実際のベトナムのモノや映像などで分かりやすく紹介。 感想：しんと冷える小学校の広くてきれいな多目的室をお借りして報告会を開いていただいた。全員興味津々で拝聴。ベトナムに関係のある会員も数名いたので大いに盛り上がり、大変楽しいミニ学習会であった。

<第4回> 日時：2006年3月14日（火）午後7：30～8：30 出席者：8名

講師：猪俣雅子 内容：「ユニセフの活動について」国連機関としての UNICEF（国連児童基金）と NGO としての「（財）日本ユニセフ協会」また、「埼玉県支部」の歴史・活動目標・活動内容などについて資料に基づいて簡潔に説明。 感想：知っている様で実は具体的な歴史や活動内容などについては良く知らなかったことを再認識する時間となった。大変参考になった。

7. 「埼玉NGOネット」組織のあり方検討委員会【新規事業】

内容：「NGOネット」は何を目指すのか、目的は何か、その目的のためにいかなる活動（事業）を行うのか、等について検討し、「NGOネット」の改革を目指す。

経過報告：赤石さんの提案により、委員会（赤石和則、尾嶋佐和子、山木敦子、山本孟人、荒田光男）を重ね、秋頃までに試案をまとめ、06年初頭の「会員の集い」にて全会員に諮ることで合意していたが、実際には、5月10日に第1回委員会が開かれた以降は、現実問題として、赤石さん自身と委員の時間の調整がつかなかったこと、途中でドラスティックな改革が不可能な現実問題などにぶつかり、また「会員の集い」もキャンセルされたため、この委員会は事実上立ち消え状態で終わってしまった。ただし、会員数の減少、会員や活動の固定化、役員の後継問題など深刻な課題を抱えた会の現状をどうやって打開していくべきか、次年度においても引き続き検討を続けていかなければならない。

担当責任者：赤石和則

8. 会員定例会

日時：原則として、毎月第3火曜日（8月は夏休み） 午後6：30～8：30

実施日・出席者数：2005年4月19日（10名） 5月17日（12名） 6月21日（13名） 7月19日（11名） 9月13日（12名） 10月18日（6名） 11月15日（さいたま市立下落合小学校・10名） 12月13日（12名） 2006年1月17日（13名） 2月21日（9名） 3月14日（8名）

場所：埼玉YMCA浦和センター

担当責任者：尾嶋（議題作成・議事進行・議事録まとめ・送付）、山尾（議事録作成）
成果と課題：05年度より議事録の送付がEメールで可能になった（2名を除く）ため、郵送代と手間が随分節約できるようになった。出席者が限定されてきている。ミニ学習会を新規に取り入れたが、新規出席者・同一団体からの複数の参加者にはつながっていない。定例会を活性化させるための工夫をどうすればよいか。

8. 三者協議会

日時：原則として、隔月第3火曜日、午後3:30～5:00（5月17日、7月19日、9月13日、11月15日、1月17日、3月27日）

場所：埼玉県国際協力プラザ会議室（埼玉県国際交流協会内）

参加：NGOネット役員、埼玉県国際課、埼玉県国際交流協会、JICA東京

進行係：三者持ち回り

内容：JICAを含む四者で情報交換、意見交換、NGOネットからの提言、協働事業の打ち合わせ、その他

議事録：非公開の会議のため議事録は取っていないが、「三者協議会報告」として要点のみ「定例会議事録」中に記載して送付している。

担当責任者：尾嶋（担当月の司会進行、「三者協議会報告」作成）

成果と課題：すでに6年間定期的に実施されているため、忌憚のない意見の交換が活発に行われ、三者の信頼関係も確固たるものになっていると言えるが、国際課・協会とも出席者は2～3名と少数化し、マンネリ化の傾向が感じられる。NGOネットの役員が固定化し、出席者の顔ぶれがいつも同じためかもしれない。

9. 「彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク」幹事団体

内容：県内NGO代表（5団体）として、年3回の幹事会・年3回の全体会に出席。

幹事会場所：埼玉県国際協力プラザ会議室（埼玉県国際交流協会内）

日時：2005年5月26日（木）、10月17日（月）、2006年2月13日（月）
いずれも午後2:00～4:00

全体会場所：埼玉県浦和地方庁舎5F

日時：2005年6月20日（月）、11月28日（月）、2006年3月27日（月）
いずれも午後1:30～4:30

担当責任者：尾嶋（幹事会での発言、全体会における分科会でのファシリテーターなど）

成果と課題：このネットワークを2000年度に立ち上げたきっかけを作ったのも「NGOネット」であったこともあり、4年間「ネット」が代表幹事を務めながら、アドバイザーや他の幹事団体もほとんどが「ネット」の加盟団体で占めてきた。しかし、事務局が県と交流協会であるため、事業が県・協会の主導型になる傾向にある。今後も幹事団体の中心として、NGO主導型で成果を上げていくべき。また、市町村・地域交流協会の参加も拡大していかなければならない。

10. 「埼玉県海外技術研修生受入事業」推薦団体（2年目）

内容：埼玉YMCAが、フィリピン青年1名（ナルシソ・アパロスさん）を推薦、5月より

6ヶ月間研修機関としても受入れる。

担当責任者：桑原道子

成果と課題：海外協力を行うNGOにとって、現地事務所或いはカウンターパートの人材を育てることは、大きな課題である。日本で研修を受けることで、技術のみならず、日本語を習得することで、今後の協力事業の展開がより効果的になる。また、日本、特に埼玉県を理解し愛する海外の人材を一人でも多く育成していくことは、長い目で見れば埼玉県の利益となるはずである。県の予算が厳しく、この事業も「風前の灯火」となりつつあるようだが、細々とでも息長く継続して欲しい。

11. 高校生「NGOインターンシップ」受入れ（3年目）

NGOネットより7団体が受入れ:(財)埼玉YMCA、(財)日本ユニセフ協会埼玉県支部、(特活)ふじみの国際交流センター、(特活)民族フォーラム、(特活)メイあさかセンター、インフォメーション草加、和光国際交流会

成果と課題：昨年から、受入れ窓口がNGOネットではなくなり、ネット会員以外の同数程度の団体も受け入れるようになってきたが、上記7団体は、初年度から受入れを継続し、毎年受け入れのための工夫と努力を重ねている。そのため、参加高校生たちから高い評価を受け、有意義な事業となっている。来年度から、この事業に対する県の予算が0となるが、多くの団体が、全くのボランティア事業となることも覚悟で、今後も受入れを継続する姿勢を示している。

12. ホームページ管理

リニューアルに向けて、デザイン・内容など検討。最新ニュース掲載のため、更新が頻繁に行われるようになった。

管理責任者：荒田光男（リニューアルに向け、SIA「NGOマネジメントアップ支援」を活用、塩野さん（ボランティア）の指導を自宅にて数回受ける。）

成果と課題：NGOネットの役員である荒田さんが担当してくれるようになって、内容がよく分かっていることから、迅速・頻繁な更新が可能になった。ただ、アクセスして見てくれる人が少ないのが問題。多くの人に見てもらえるHPにリニューアルすることが課題。

13. <さいたま新都心街びらき5周年記念>

「秋まつり&国際フェア2005」に出展

日時：11月3日（文化の日）・4日（金）・5日（土）午前10：00～午後4：00

場所：さいたま新都心・けやき広場

内容：「NGOネット」のリーフレット、「国際協力・市民講座」のチラシ、「国際理解教育・開発教育セミナー'06」のチラシ、加盟団体のチラシなどを配布。

コーヒー・紅茶などを無料で用意した「談話コーナー」を設け、「国際協力」についておしゃべりして行ってもらおう。

加盟団体のブースに「埼玉NGOネット加盟団体」の小さい看板を掲げてもらう。

(メイあさかセンター、日本ユニセフ協会埼玉県支部、埼玉YMCA、民族フォーラム、AAA)

担当者：尾嶋佐和子、山木敦子、山尾三枝子

成果と課題：久しぶりに「NGOネット」として正式に出展したが、今年は3日間連続だったので、ブース番が大変だった。一般参加者の目を引き付けるモノが無く地味なブースだったので、足を止め話して行ってくれる人は少なかったが、「外国人119ネットワーク」と同じテントをシェアしていたので、協力し合って「国際協力」や「在住外国人支援」の問題について一般参加者に語りかけることができた。また、「119」に来年度からは「ネット」の会員になってもらえるよう依頼した。

14. 城西大学経済学部「国際ボランティア論(民間の立場から)」担当

埼玉NGOネットとして受けて7年目：各NGOが1時間30分の授業を1回ずつ担当、学期末テストを課し、採点、評価を行う。

講義担当：尾池富美子(メイあさかセンター)、石井ナナエ(ふじみの国際交流センター)、猪俣雅子(日本ユニセフ協会埼玉県支部)

担当責任者：尾池富美子

成果と課題：大学生にNGOの活動について知ってもらうことで、「国際協力」に関心を持つ若者を育成する一助となれば幸いと認識で継続しているが、年々学生の質が低下し、授業態度・テストの結果とも悪く、あまり成果が上がっているという実感が持てていないようだ。次年度も継続を希望されているが、何らかの工夫が必要と思われる。

2005年度役員

代表：尾嶋 佐和子(個人/SIA「地球市民育成事業」日本人講師)

副代表：山木 敦子(インフォメーション草加)

〃：桑原 道子(財・埼玉YMCA)

世話人：赤石 和則(個人/拓殖大学国際開発学部教授)

〃 尾池 富美子(特活・メイあさかセンター)

〃 荒田 光男(特活・ふじみの国際交流センター)

〃 井上 良美(和光国際交流会)

書記：山尾 三枝子(個人/原市日本語ボランティアサークル)

会計：猪俣 雅子(財・日本ユニセフ協会埼玉県支部)

監査：山本 孟人(特活・民族フォーラム)

事務局：三上 英一(財・埼玉YMCA浦和センター)